今年の抱負

今年は辰年です。辰は「ふるう、ととのう」を意味する「振」で、陽気が動いて万物が振動し、草木もよく成長して形が整った状態を表します。

また十二支の中で最も縁起の良い干支と言われており、さまざまな願いを叶えてくれるだけでなく、あらゆる物事をいい方向へ導いてくれる力があるとされています。

今年も良い年になるといいですね。今回は4人の方に抱負を語っていただきました。

地域の宝 つるせ台小学校合唱部

鈴木　理紗 さん（つるせ台小学校教諭）

本校では、10年前に合唱部が設置され、現在50名の部員とともに歌声魂をモットーに頑張っています。

私は合唱部での活動は、情操教育の一環としてより豊な人間性を育てることができると考えています。「自己の表現が他者と出会い、歌い合うことで互いに交わりあい、心が通い合ったとき一つの大きな作品となる」これこそが、合唱の醍醐味であると思います。

一方で、働き方改革や教員の負担軽減と叫ばれている中、既存の合唱部を存続させていくことはとても厳しいです。指導者不足で、合唱部が廃部となるケースもたくさんあります。「部活動はどうあるべきなのか？」やはり、教員だけでなく、保護者や地域と密に連携をとりながら、部活動を運営していくべきだと思います。

地域と一丸となるサポートがあるからこそ、部員が自発的な練習を行い、毎日決まった発声を行い、それを繰り返し毎日行うことで、声が安定し日々の練習への自信にも繋がっているのです。

その結果、昨年行われたNHK全国学校音楽コンクールでは銀賞、全国日本合唱コンクール埼玉県大会では金賞及び埼玉県知事賞と、本校で初となる成果をおさめることができました。

今年はより一層、保護者の方や地域と連携して合唱指導を行い、情操教育を豊かにするために活動していこうと思います。

鶴瀬西交流センターフェスティバルにて

感動の旅をもう一度

廣嶋　博夫 さん（関沢2）

昨年地区の長老たちと酒を酌み交わしている時、出身地が話題になりK先輩は長野県小布施町出身と知り、小布施の懐かしい思い出が蘇りました。

信州小布施　栗の道

「おぶせミュージアム・中島千波館」において長年懇意にして頂いている人形作家の与勇輝（あたえゆうき）先生の「人形展」が開催され、先生と仲間たちと共に見に行ったとき、現代の日本画家中島千波先生のどでかい絵画「桜の作品」に心を奪われました。お二人のサイン入り作品集は今でも宝物です。

昨年、目の病気を患い体調を崩し家族旅行が叶いませんでした。今年は気功・ウォーキング運動を継続し体力増強、体調を整え、いろいろな集会には出来るだけ参加して、フレイル予防に気を使い人生を元気に頑張りたいと願っています。

今年は、あの心を奪われた桜の絵画、中島千波館など観光スポットの多い小布施に、家族と一緒に訪ねたいと願っています。

今年も歌声響かせて

細川　紀子 さん（鶴馬）

新年の抱負といっても、何か新しいことを始める…はもうない。長いことやってきたことを今年も続ける。これが私の目標だ。中でも仲間と共にふんばって続けてきたコーラスや歌劇団は、声を出し、体を動かし、頭もめいっぱい使うので、脳の活性化に大いに役立っているような気がする。いくつになってもほめられれば嬉しいし、ダメ出しが出れば応えようとがんばる。そろそろピリオドを打とうかと思う時もあるが、お客さまから拍手をもらうと、もう苦労も吹っ飛んで、また稽古を始めている。

よし！今年も元気に家を飛び出して、この楽しみな時間を大切にしていこう。

富士見市民音楽祭にて

楽しいボランティア活動

丸山　和明（かずあき） さん（関沢2）

今年は仕事から完全に離れて退職者生活になる予定です。今までは仕事優先の生活でしたが自由時間だけになると生活リズムをどの様に保つか、そもそもが出不精な性格のため一日があっという間に過ぎてしまい、ただ年を重ねるだけになってしまうのかと不安がよぎります。

これからは、健康維持に努め、まずは健康寿命90歳を目指そうと思います。

また周りの方々との関係を大切にして、山の会「鶴瀬西二歩の会」の参加、ピークハントだけではない個人山行、ボランティア活動の「おもちゃクリニックふじみ」の参加を継続して進めていきたいと思います。

現在、おもちゃクリニックでの喫緊（きっきん）の課題は、おもちゃ修理ドクターが5人しかおらず、ドクターの高齢化によりこのままでは運営が出来なくなるのではないかと心配です。今のおもちゃは我々の技術力で直せるものは減少していますが、直せた時の喜びと、子どもの笑顔は最高です。今年も技術の向上を図り、会員の増加、特にドクターを増やしたいです。どなたか応援してやろうかと思う方はいませんか。見学だけでも結構ですので丸山までご連絡ください。

★☆あとがき☆★

地域広報紙「つるせ西だより」は、一・二月、七・八月の合併号と合わせて年間十回、毎回約一万二百部を西地域住民の皆さんに配布しています。

発行に際して、当編集委員会（定員10人、欠員1人）では企画・編集に当たり、住民に必要な情報を提供するとともに、住民からのさまざまな声を寄せていただく「広聴」にも努めて参りました。しかし、小生も八十八歳、委員会の構成上どうしても高齢者の意向に偏りがちです。もっと若い人たちの意見や住民の率直な声を傾聴して、共通のテーマを公・私が共有し、更には参画・協働していただくことで、誰もが「安心で幸せ」と思える「生きがいのある街」づくりの施策に、少しでも反映できたらと切望するものです。（川上）

今年もよろしくお願いします

編集委員一同